

パートナーシップおかげ

NO. 23

岡谷市男女共同参画推進市民の会

「男女共同参画計画取組み」 私の思い

岡谷市高齢者クラブ連合会副会長 川窪 照昭

私が岡谷市の「男女共同参画」審議委員に任命されたのは、平成20年6月からの1年間と、引き続き平成21年6月からの策定検討委員会会長としての2年間でした。丁度今から4年前にこれらの仕事からは退いて居りますが、取り組んだテーマ第4次計画の素案作りの時で、現代社会における男女平等！と言うより社会の成長や発展のための男女の真の共同をどうするか、という問題への挑戦であったと記憶します。



従ってこの3年間で男女共同参画問題は卒業では無く以後もこの問題を常に念頭に、男女共同・共業を考え問題処理に当たっております。そうする事が真の共同参画問題解決に繋がるからです。

今から7年前の男女共同参画審議会は男女平等、女性の地位向上が先決の問題として取り上げられ、「真の共同・共業」と言う問題はあまり前面には出ませんでした。古来からの男尊女卑思想をどう社会から払拭するかが主テーマにならざるを得ない雰囲気が強かったからだと考えます。

この問題が社会に潜在していたことは事実ですが、男女共同参画社会問題は女性の役員、管理職登用問題に特化・先行され過ぎ、これで良いのかと疑問を持つ者もおりました。

アンケートのやり方も女性がどのような管理職に着いたのかを視点に取り上げる様を見て、時に委員会のメンバーの一部（女性）から、女性問題のとらえ方に問題があるのではとの意見が出される等もありました。私も認識として多少の違和感を持ったのも事実です。

役職はなくても自治会で活躍している女性は沢山います。公職に着かれ役割を担って立派に職責を果たし地域に貢献している女性も多いのです。これら女性の皆さんを評価してあげられなければ地域は成り立ちません。女性のこのような努力が女性の長寿そのものを支えているのではないのでしょうか。高齢者クラブでは特に女性の活動が頼りになるケースが実に多いのです。

ここでチョット違った観点から男女共同参画問題の日本における変化を紹介します。丁度高度経済成長時代の昭和40年半ばの！T社とM社の商品開発の仕方の違いです。

T社は男性社員が専ら開発に携わり商品の形状・材質・使い勝手等これならお客に受け入れられるはず！というコンセプトで開発販売をしていました。一方M社はあらゆる商品は女性である家庭の主婦が使っており、彼女らに開発を任せる事を良案とし、開発スタッフを女性に一新生産を進めました。

結果は火をみるより明らか、女性スタッフの開発品が大量に社会に出回ったのです。T社のやり方を『シーズ志向』M社のやり方を『ニーズ志向或はウオンツ志向』と言います。男女共同参画社会はお互いの持つ違った才能をお互いに認め合う社会でなくてはならないのです。

男女共同参画社会づくりポスターコンクール 入賞者の表彰式が行われました

平成27年10月7日(水)

保護者・担任教師も出席し入賞者一人ひとりに市長さんから表彰状をいただきました。

ちょっと恥ずかしそうな小学生もいましたが、みんなの拍手に誇らしげな顔も見えました。残念ながら入賞を逃した作品も含めそれぞれ皆さんの思いが伝わってきました。小・中学生の皆さんありがとうございました。



男女共同参画の地域づくりについての懇談会

平成27年12月15日(火) イルプラザ・カルチャーセンターにて市民の会主催で開催されました。

区長9名・女性区議員・各種団体の女性役員30名、市民の会員・市事務局10名総勢49名の皆さんにお集まりいただき懇談会が開催されました。

主催者宮坂会長あいさつの後、小池副会長より、「男女共同参画社会とは、女性の政策・方針決定の場への参画の状況、おかやプランV」等につき資料を基に概要説明があり、慣習やしきたり等男女の地位が平等だと思える人が、平成30年には今の8,5%から少なくとも20%にしたい、と男女の意識改革の必要性を訴えました。全体の進行係を今井副会長、懇談会の進行を小口事業部長により、参加者の自己紹介に始まり懇談会に入りました。

<区長さんにお聞きします。各地区の現状と女性区議員の選出方法について>

- ・区議は町内代表で男女とも自らの立候補はなくほとんど推薦。
- ・女性枠を作った時期もあるが今は外した。
- ・元区長が女性の声を聞きたいと区議を男女半々にした。
- ・女性たちが運動したこともあったが男性の抵抗もあった。
- ・今は女性議員0だが、来年度は行政指導により女性を出す。



<区議員や役員になぜ女性は出にくいのか>

- ・区議は町内の推薦であり女性議員を出したくても区長も口は出せない。
- ・門戸は開いているのに女性自身が出たがらない。意識改革が必要。
- ・家事育児で女性は忙しく介護も抱え無理と断られる。
- ・区によっては女性区議では無理な仕事もある。
- ・ボランティア精神が育っていない。
- ・区によっては他の役職と区議兼務で負担が大きい。



<区政のどんな分野に女性は参画していますか>

- ・企画力、実行力のある援助員が「いきいきデー」に女性力を発揮している。
- ・女性の発案で和式トイレを洋式に変えた。
- ・ほとんどの区の行事には婦人会の協力を得ている。
- ・日赤奉仕団、社協会長、保健委員長、区議など。



<女性が区政への参画といっても女性自身にも問題ありとの声に対して>

- ・男性の区議は皆立候補？(推薦との声) 男性は家庭に帰りちょっと一休みだろうが、女性はこれから夕食の支度、育児などで男性とは立場が違う。
- ・区政を議決機関と執行機関に分ければ女性も出やすい。
- ・女性に家事・育児を任せっぱなしも問題。
- ・若い人は共同でやっている。
- ・女性が役職につくには夫、家族の理解がないと無理。

<今後女性が副区長・区長につくことがあったらどんなアドバイスを？>

- ・区民に対し公平が基本。男女、職業により差別をしない。
- ・区におかれている状況を把握し、区民の意見をまとめ辛抱強く。
- ・個人の力量だけではなく周囲にブレンがいれば女性の区長も可能だと思う。大いに期待している。

<全体を通しての課題>

- ・女性も一歩前へ出る勇気を。男性も女性の背中を押してほしい。
- ・各地区とも団体の役員になり手がなく深刻。どう解決していくのか。
- ・役員のなり手がなければ女性の進出のチャンスと思われるが、まだその環境が整っていない。
- ・男女ともにまだまだ意識改革が必要。

出席された女性の方々のご意見をもっと聞きたかったのですが、発言の場が少なく大変申し訳なく、また場所によってはマイクが届かなかった方もあり反省しております。

年末の大変多忙な時期にもかかわらず大勢の皆さまにお集まりいただき、現状と今後に託する希望について有意義な懇談会となりました。出席された皆様には厚くお礼申し上げます。(市民の会 伊藤綾子)

平成27年度 長野県男女共同参画推進県民大会

女性の活躍推進フォーラム開かれる

平成27年11月7日(土) 小諸市文化センターにて講演とパネルディスカッションが行われました。東京大学大学院総合文化研究科教授 瀬地山 角さんが、「笑って考えるワーク・ライフ・バランス」と題して講演されました。

◇高齢者・主婦もみんなで働く社会にしよう◇

専業主婦の配偶者控除・第3号被保険者制度より母子家庭の方が優遇されるべき。男性の家事育児に関する時間の少なさは社会的に問題にすべき水準。家族が生まれる時は忌引きと同程度に社会的に認めてもよいのではないか。夫の産休を普及させよう。個々の残業のデータを職場で掲示すれば残業は減り、生産性も上がり生活と調和のとれた働き方ができる。男性も大変！一人では荷が重過ぎる。

「みんなが働く社会」とは「みんなが家事・育児を共有する社会」と結ばれました。

<パネルディスカッション>

コーディネーターに瀬地山さん 4人のパネリストよりテーマ「長野から発信する男女ともに輝く多様なワーク&ライフスタイル～イクメン・イクボスの立場から～」に対してそれぞれ次のような発言がありました。

<イクメン・イクボスを増やすには>

- ・管理職の理解がないと無理。育児を体験しないと理解できない。
- ・育休制度はあっても男性の利用者は少ない。
- ・自分が休んでも会社はなんとかなる。
- ・職場と家庭が近い方が望ましい。

<長野県でできること>

- ・事業所内に託児所を設置してほしい。
- ・差し支えのない範囲で子連れ出勤を認めてほしい。
- ・自然豊かで子育ての環境の良さを発信する。
- ・父親の活躍できる場所が多い。



おokay市民のつどい

主催 おokay市民のつどい実行委員会・岡谷市

テーマ 「仕事と育児 どっちを選ぶ? 両方できる?」

《学んだ事柄》

講演とパネルディスカッションが行われました。

講演者：治部 れんげさんより

- 就職した会社の上司や先輩の指導により、やる気がなかった私は「仕事の面白さ」を教えられました。ポイントは、当事者意識をもつことであり、誉められたり、時には厳しく叱られたことでした。
- 仕事と育児、両立のパターンはいろいろあるが、家族(家事、育児等)や自分の強みを発揮(アピールする等)できる場所(会社、職業等)、活かせる環境や人脈を分析して活用すること。即ち、仕事優先や家事優先でなく、仕事と家事のバランスをとりながら満足度を高めていくこと。

パネラー(宮本聡子さん 西村 幸さん 五味静絵さん 村上寛樹さん)より

- △出産したからと言って仕事を辞めたくなかった。起業し社会に貢献したい。そのため未満児保育の施設を必死で探し働ける環境を築き続けた。
- ☆経営者として、下請けでなく自社技術を確立・特許化し、製品化して世の中に貢献すべきと考えている。力量がある人ならば、一人親家庭など厳しい環境を抱えている人でも採用する。緊急時の遅刻や早退は厭わない。周りの仲間が当然のようにカバーしあっているし、本人も可能な限り用事が終われば仕事に帰ってくる。(強制されなくても)
- ☆人材育成には時間とコストが掛かる。技術を蓄えてきた従業員を簡単に手放すわけにはいきません。本人の意向を汲み働いて頂く工夫をする。
- 学卒後、地元の金融機関に就職した。結婚する時勤めを続けさせて欲しいと懇願した。妊娠・出産を迎えた時も、会社に引き続き勤めさせて欲しいと上司に談判した。職場が理解を示してくれた背景には、夫や両親が家事・育児に最大限の支援をするという強力な後押しがあった。家族に感謝です。
- 出産後も仕事を続けいろんな経験を積み、融資担当としてお客様がローンを組む時の家庭の状況、子育てのことを配慮して相談にのったりアドバイスができる。
- ◇結婚半年後、会社が突然解散となり退職した。子どもが生まれる時期でもあり、早産だったので専門家から育児のコツを学んだ。そのまま妻が会社に勤め続け、自分は主夫(専業パパ)を決意した。子育ては24時間体制で大変だがやりがいはある。子育てが安定したらパートで働きたい。

《学んだことを活かして、私たちは・・・》

- ◎自分を分析する。やりたい事、強み、持てる資源、(人脈、仲間、環境等々)
- ◎一人で抱え込むのではなく、家族でどう協力し合えるか考え話し合う。
- ◎勤務先の上司・人事部門、行政窓口、保育園や学校へ、仲間と相談に行く。

明日、先ず何から始めるかを、今！決める

(市民の会 山口俊雄)

寄せられたアンケートより

- ・非常によかった。働く女性に追い風というが自分がうまく利用すればよいと思った。(20代女性)
- ・女性が活躍するには、女性、制度が変わればよいと思っていたが、男性も参加してこそ！理解が深まった。(30代女性)
- ・いろんなジャンルのパネラーで、身近な人々だったので具体性があった。経営者の姿勢が社員を変える。(20代女性)
- ・仕事・育児どっちを選ぶ？仕事を選んだ方ばかりの話だったが、育児の失敗などの話も聞きたかった。(30代女性)
- ・女性が働き続ける内容、条件はいろいろあると感じた。(70代男性)
- ・企業内で研修などしてもらえば経営体制が改善されるのでは。(30代女性)
- ・男性に「育児と仕事が両立できていますか？」と問いかける人はいないなと思った。この点も問題なのでは。(50代女性)
- ・具体的に育児・介護の話も聞きたい。今両方で誰も頼れぬ。(30代女性)



岡谷市企画課では、岡谷市男女共同参画推進事業として、「子どもの意識づくり」の冊子を市内全小学校へ毎年配布しています。この冊子を読んだ5年生の皆さんに感想を書いてもらいました。

<神明小学校5年生の感想>

○「働くってどういうこと？」の所でママは仕事もやって専業主婦もやっているから大変だなと思ったけど、私も専業主婦と仕事もできるようになりたいです。「命ってだれのもの？」自殺のニュースを聞くんだけど、その行動は一人の命がなくなると次の命がなくなってしまう。親も悲しむから命は大切にしたいと思った。

○最初から「男の人と女の人の違いってなに？」が気になって、男でも弱い人もいるし、女でも強い人もいたりするから、「男だからしっかりしろとか」、「女だからおとなしくしろ」って決めつけて役割を決めるのはおかしいと思いました。



○女子の中に男子1人でいっしょのクラブに入るのは、はずかしくていやだったけど、この話を読んで全ぜんはずかしくないんだなって思った。大人になって仕事を女子男子と自分の中では分けていたけど、自分のやりたい職業についていいんだなと思った。家族とは一番信じてあげることができ、いっしょに考えてくれる人達だと思っていただけ、努力したり協力し合ったりする人達でもあるんだなと思った。

○この本の手芸クラブに入ってみたい人みたいにぼくはピアノを習っている。細かいことも好き。友達に「意外ー」と言われたことがあった。たとえば男性があやとりをやって仲間外れにするとか、そういうのは止めたほうがいいと思った。区でやる行事には行けるなら行きたいと思った。楽しい思い出をつくり、犯罪を少なくできるから。周囲のかべをこわしのり越えるといい。

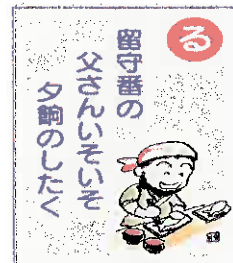
○男女平等という所でまだ全ぜん解決されてないと思う。なおしていくためには、男は〇〇女は〇〇

というイメージをなくせばいいと思う。小さいことから一人一人意識しないと変わっていかない。男女平等になるとできることも増えていくと思う。

○男だからこうする、女だからこうしなきゃいけないというように決めつけるのではなく、とにかく自分らしく生きていくということを意識したいと思った。学校の登下校のときしっかりあいさつをして、近所との中もふかめていきたい。地域の祭りなど積極的に参加したい。

○クラスで良いところやにがてなところを話したいと思いました。仕事も大変だと思うけど、先生が「大変は大きく変わるチャンス」って言うから、働く大変さを逆に知って働いてみたくなりました。私は動物にかんげいする仕事につきたいんだけど、そのためには高校大学にも行かなくてはいけないから大変だなーと思いました。家族は大切なそんざいですが、たよってばかりでなく自分のことは自分で出来るようになりたいです。

○「男女平等ってどういうこと？」たしかに音楽クラブには女子くらいしか入らないと思っていたけど、男子も入っているから、サッカークラブとかそういうのに入ってみようと思いました。



「近所づき合いはなぜ大事？」全然近所の人と話したりしていないから関係ないと思っていたけど、いざという時に助けてもらえるように毎日あいさつしていきたいと思いました。

○男女平等はとても大切なことで、男女関係なくいっしょに何かをやっていくことが大切だと思った。学校生活でもそのことをいつまでも忘れずに男女いっしょにやっていきたい。

<神明小学校保護者の皆さんの感想>

○分かっている事とはいえ改めて冊子を読んでみて、男女の差別はまだまだ色々あるんだなと思いました。男だから女の子だからでなく、これからは子ども達にはやりたい事や好きな事を、性別に関係なく出来るようになってくれるといいなと思いました。

○私は造園会社で働いています。現場では男の人と一緒にピーバーを使って草刈りをしたり、木の剪定をしたり重い物を運んだりもします。私が女でも対等に接してくれ協力しながら作業をするので、

男の仕事、女の仕事と区別したり、男だから女だから無理という事は無いと知っています。人は他人でも家族でも協力しながら生きている。それってとても大事な事だと思えます。

○昔に比べると男女平等ということが浸透してきていますが、職場でも普段の生活でも平等でないと感じる事がまだまだあります。男性ももっと育児に参加し、子どもと接する時間を増やすことができれば、家族の絆もより一層深まると思います。

※(裏面もあります)

＜神明小学校保護者の皆さんの感想＞

○家には長男・長女と2人の子どもがいます。この冊子を読んで、男らしく女らしくという事ではなく、長男は長男らしく長女は長女らしく、私は私らしく良い所、得意なことを伸ばしていけたら良いなと感じました。子ども達が大人になる頃には、男女平等という事を考えなくてもよい世の中になっていると良いなあと思います。

○男女共同参画推進については、もっと慎重に考えるべき点があると思います。最近男女平等などと教育で教えているが、都合の良いとらえ方をされないようにしなければならないと思います。男性だから女性だからと決め付けてはいけないと思いますが、男性・女性には基本的に違いがあるという事は認識すべきであると思っています。身体測定など男女別に行なうように男女で差がある事は明らかです。その違いを理解し個人差も尊重できる社会になるべきだと思っています。



○全体を通してこれから子どもが成長していく中で大切な課題だと思いました。TVなどで男女関係なく色々な事をやっている様子が伝わってきますが、いざ日常生活の中ではまだまだ男の人と女の人として決め付けている部分があると思います。自分の意志をはっきり伝える環境が作れたらいいと思います。近所付き合いでは、日頃からあいさつを通して顔見知りになることだと思います。地域の行事などにも参加し、近所との交流をもっと深めいく必要があると思います。

○男女関係なく平等に接しなくてはいけないとわかっていてもつい、子供に「男なんだから…」と口走ってしまうことがあるので今後気をつけたいと思います。子どもには「自分らしさ」を大事にしてもらいたいです。命の大切さ、家族だけでなく他人との繋がりも大事にし、心優しい子になってほしいです。

○男だから…女だから…によっていじめにもつながりがあると思います。学校という集団生活の中で、このような事を学ぶ時間を大切にしてほしいと思います。男女平等の世の中がいいですね。

○子どもの頃からの意識づくりはとても大切な事だと思う。「育メン」や「料理男子」「男性の育休」とか、今まで女性がするのが当たり前とされていた事を男性がしてもおかしくない世の中になっている。

私の子供時代自分の家庭では、父親は料理することはなく、母親は仕事をしながら家事もこなすのがあたりまえで育った為か、男性が家事をする事に男女平等が理解できないわけではないが、違和感を覚える。家庭での生活、親の姿勢が子どもの頃の意識が今の自分の意識に影響しているならば、意識作りには家庭での生活、親の姿勢が重要な役割をしている事を常に考え、子どもと接し一緒に考えていけるようにしたい。

○昔と違い「男女平等」という基本があることは大変重要だと思います。大人になり社会になるとなかなか難しいとは思いますが、困難に立ち向かった時にはぜひ周囲（家族、友達、地域の方々）の力を借りて切り抜けてください。また困っている人がいたら助けてあげてください。人との出会いを大切に自分の夢、道を進んでいけたら幸せです。

○自分の子どもにも「男だから」「女だから」と何気なく言葉を使っていました。これから気をつけたいと思いました。当たり前のように過ごす家族ですが、感謝して皆で支え合っていきたいです。近所付き合い地域の行事にも積極的に参加するよう心がけています。

○色々なテーマがりましたが、わたしらしく生きていくためには自分の主張ばかりでなく、相手を尊重する気持ちが大事だと思いました。



○子どもが怪我をした時に、近所の方に助けてもらい本当にありがく思いました。娘と散歩をしているので近所の方と会話の機会も増えました。この冊子には家族のこと、仕事のことなど大切なことが書かれていました。何度も読み返し時々振りかえって考えていきたいと思っています。

○我が子がこんな事を考えていたのかと知ることができました。普段は話題にならないし、しにくいことです。わざわざ話題にできない事だから親として行動で示していきたいと改めて思いました。これからの時代を作っていく子供達に伝えておかなければならない事が多いなとも。



(使用かるたは「あいとぴあ」男女共同参画啓発かるた)